

第6回研究大学コンソーシアムシンポジウム（オンライン）2022年10月6日開催

セッション2 「セクターを超えた協働による研究の飛躍を目指して」

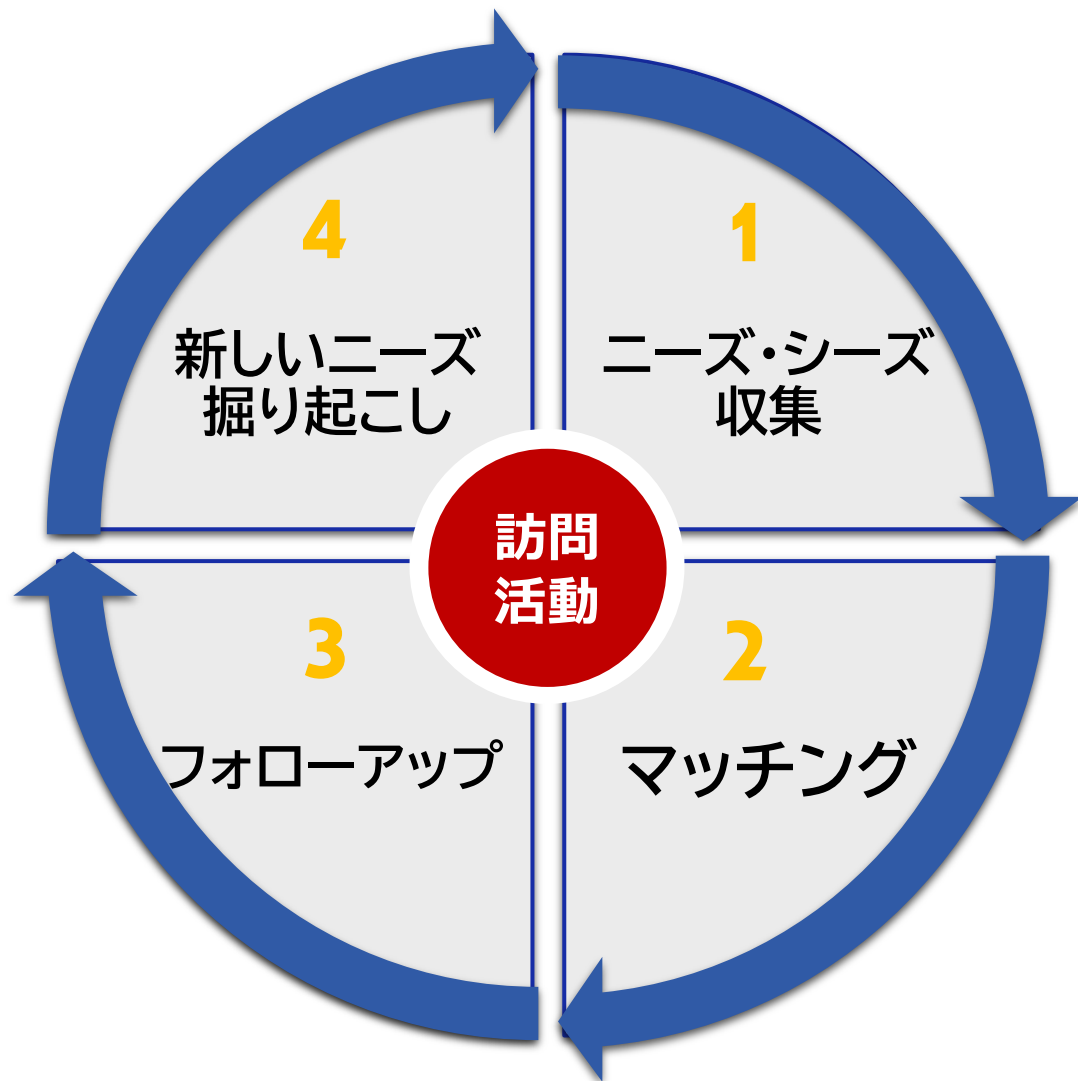


# 北陸先端大の産学官連携の取組み

北陸先端科学技術大学院大学

産学官連携推進センター副センター長・准教授 中田泰子

# ニーズ指向の産学官連携（訪問活動）



## 1 ニーズ・シーズ収集

### ■ URAによる直接的な訪問

北陸地域を中心に全国の企業や機関、大学を訪問

訪問数: 500社以上/年

## 2 マッチング

### ■ 多様なマッチング機会の創出

#### ① 本学教員とのマッチング

知識科学系、情報科学系、マテリアルサイエンス系

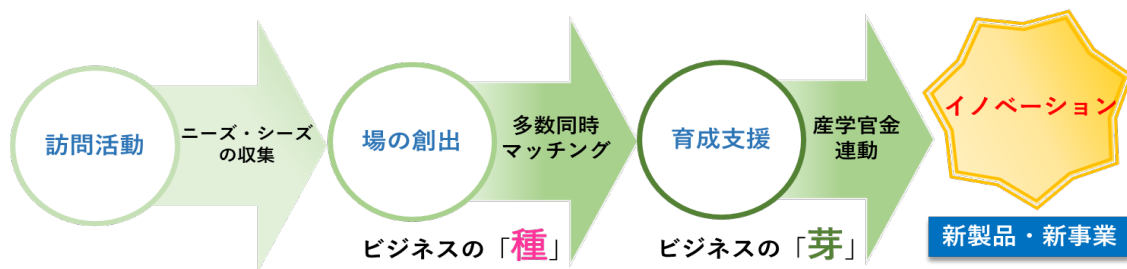
#### ② 他機関とのマッチング・Matching HUBの開催

- ・北陸地域の大学、工業試験場、企業、支援機関とマッチング
- ・筑波大学の「産学連携プラットフォーム」に参加
- ・産学官金連携マッチングイベント「Matching HUB」開催

Matching **HUB**<sup>®</sup>

## コンセプト

Matching **HUB**



新製品・新事業につながる「種」を  
数多く同時に創ることが出来るシステム

### 1 幅広い分野の企業や大学のニーズ・シーズの出展

- 北陸3県を中心に全国から出展
- 異分野・異業種の交流(産学官金)

### 2 出展者同士のマッチングが中心

- Matching HUBの最大の特徴
- URAによる当日のマッチング支援

### 3 産学官金連動の育成支援

- 自治体、支援機関、金融機関
- 北陸RDXとの連携  
(産学融合先導モデル拠点創出プログラム  
2020年度採択事業)



Matching HUB Kanzawa 2020



Matching HUB Hokuriku 2021



Matching HUB Hokuriku 2021

## ■ 産学融合先導モデル拠点創出プログラム2020年度採択

経済産業省の産学融合拠点事業である、令和3年度「産学融合先導モデル拠点創出プログラム(J-NEXUS)」の第2回の公募において、「北陸RDX ～DXとESG投資による次世代への飛躍～」が採択。全国で3番目の拠点。令和3年4月より5年間。それ以降の自立化を目指す。

## ■ Matching HUBのノウハウとネットワークを活用

この申請では本学がリードし、一般財団法人北陸産業活性化センターが代表幹事機関となり、北陸地域の国立4大学、自治体(富山県、石川県、福井県)、北陸経済連合会、支援機関、金融機関等からなる参画機関による連携体を形成して申請。

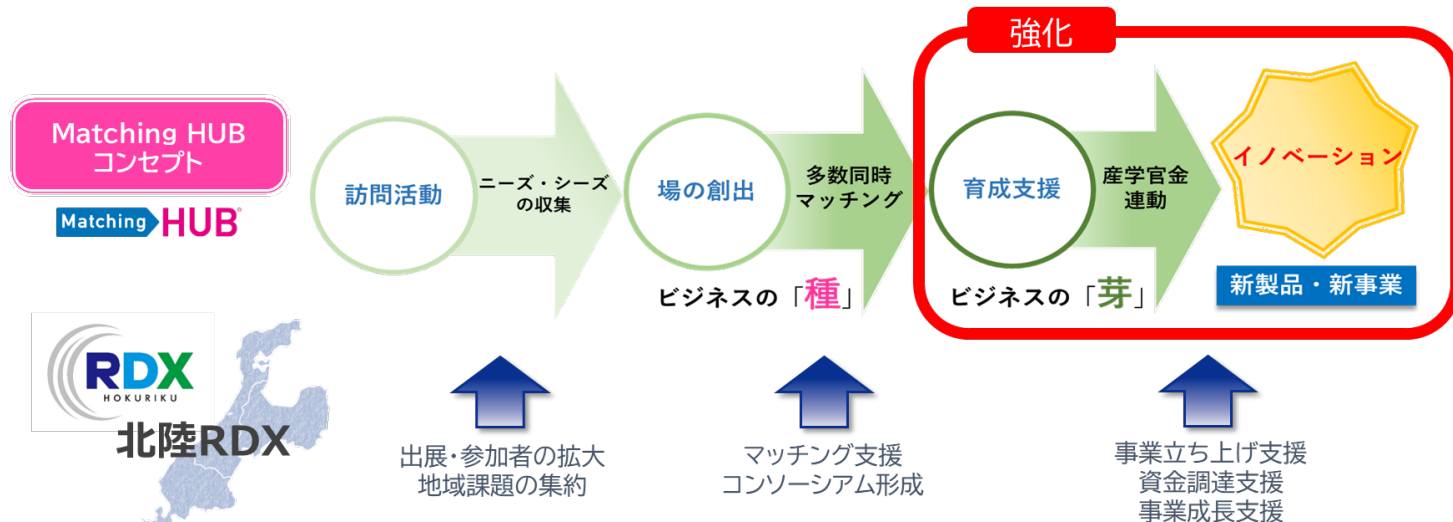
## ■ 北陸DXアライアンス(HDxA)

北陸地域の産学官金の18参画機関と8協力機関が連携。

会 長：金井 豊（北陸経済連合会会長）  
副会長：齋藤 滋（富山大学学長）  
和田 隆志（金沢大学学長）  
上田 孝典（福井大学学長）  
寺野 稔（北陸先端科学技術大学院大学学長）  
議 長：井熊 均（総括エリアコーディネーター）

## ■ Matching HUBの機能強化と発展



より強力な出口支援



# Matching HUB (産学官金連携マッチングイベント)

## 開催実績

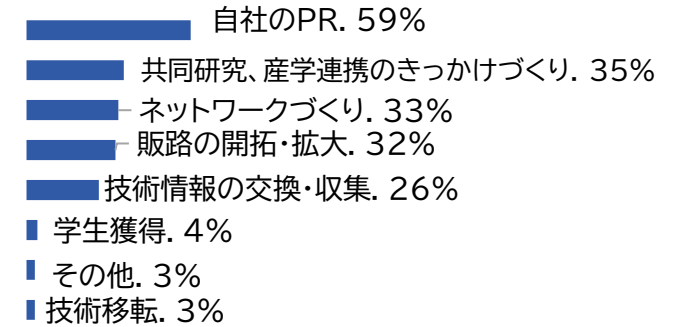
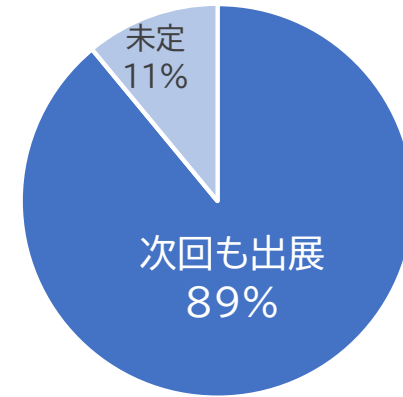
- 2014年度から毎年開催
- 2020年度のコロナ禍においてもリアル開催
- 2021年度に「金沢」から「北陸」へ発展

	出展ブース数	参加者数名	
2014年度 (第1回)	<b>166</b>	<b>717</b>	
2015年度 (第2回)	<b>226</b>	<b>1,350</b>	
2016年度 (第3回)	<b>271</b>	<b>1,671</b>	
2017年度 (第4回)	<b>250</b>	<b>1,290</b>	
2018年度 (第5回)	<b>235</b>	<b>1,370</b>	
2019年度 (第6回)	<b>235</b>	<b>1,431</b>	
2020年度 (第7回) コロナ禍	<b>102</b>	<b>1,153</b>	
2021年度 (第8回) コロナ禍	<b>162</b>	<b>1,454</b>	

## 出展効果 (出展者アンケートから)

〈次回のMatching HUBへの参加〉

〈出展目的〉



- 次回も出展したい: 89%  
出展者満足度が高くリピートも多い
- 目的は自社PRや共同研究が多い

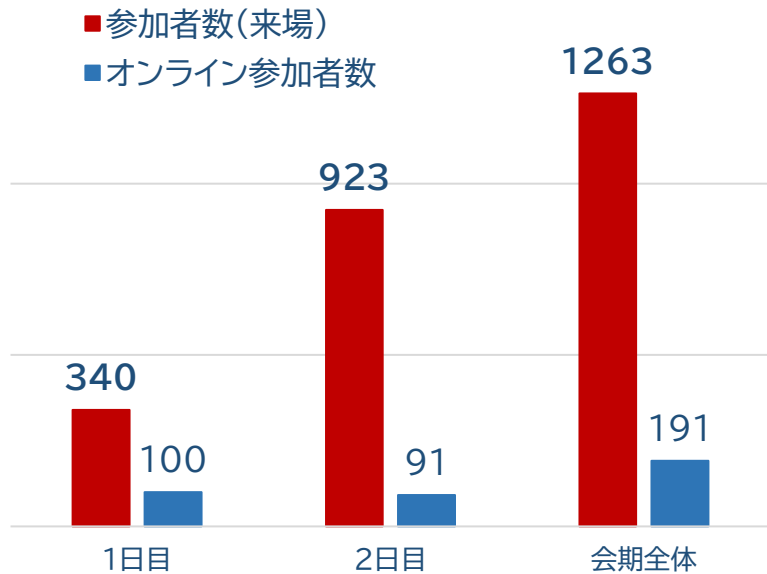
〈出展後アンケート〉  
実施日: 2021.2.1-2.11 回収率: 70% 有効数: 68

	2018年度 (第5回)	2019年度 (第6回)	2020年度 (第7回)	2021年度 (第8回)
当日マッチング数 (ビジネスの種)	約 500 件	約 500 件	約 200 件	約 300 件
平均 2件 / ブース				

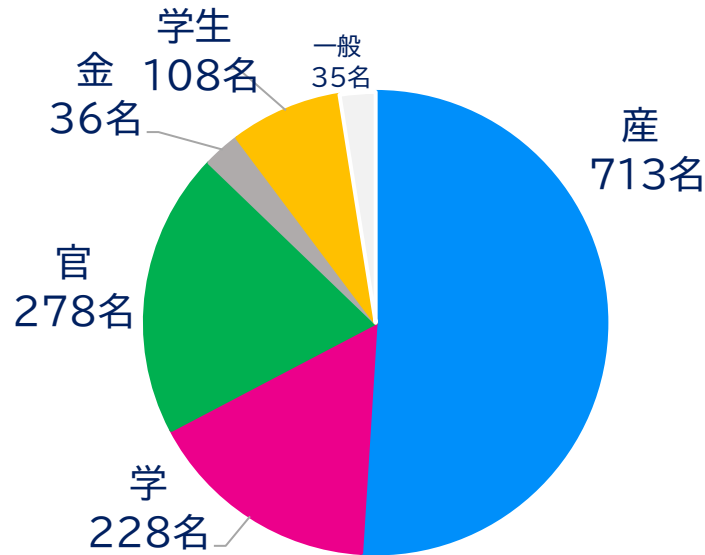
# Matching HUB Hokuriku 2021 開催報告

参加者数 (2日間合計) のべ**1,454**名(オンライン含む) 参考:のべ1,153名(昨年)

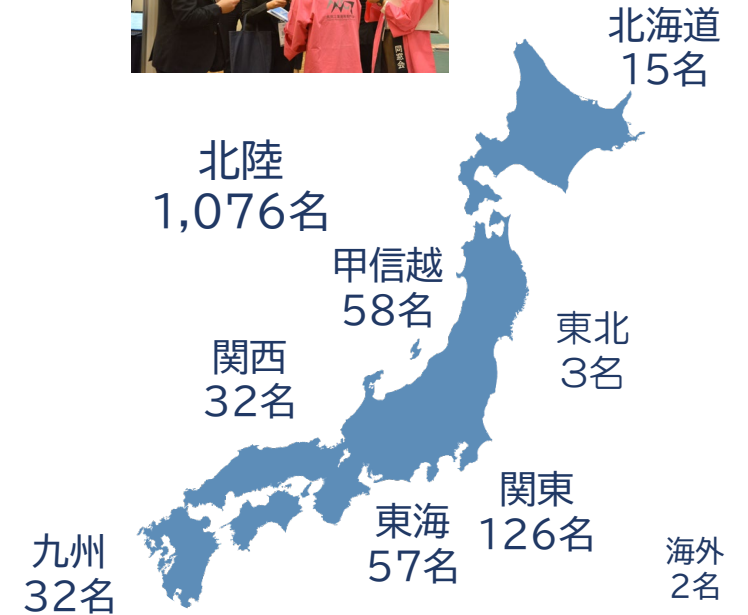
[内訳] 1日目: のべ440名 ・ 2日目: のべ1,014名



日別参加者数  
(2日間のべ人数)



分野別参加者数  
(2日間のべ人数)



地域別参加者数  
(2日間のべ人数)

# 北陸RDXで事業化に取り組む「種」 (26件)

- ・植物系残さを分解できる小規模完結型メタン発酵システム事業
- ・農業者のワザをつなぐプロジェクト
- ・高効率なコマ型可動式風力発電システム事業
- ・廃石膏ボードの国内初の固化材再資源化によるリサイクル事業
- ・プラスチックを活用した環境にやさしい高機能アスファルト舗装の開発
- ・10W級熱電発電によるIoTセンサー等の独立電源システムの開発
- ・防災・スマート農業への複合利用を想定した意思決定支援システムの基礎整備
- ・地場産業従事者向けデジタル人材育成プログラムの構築と普及
  - ・北陸の伝統工芸産業をDXで革新
- ・下水調査による感染流行早期検知システムプロジェクト
- ・リハビリテーションDXプロジェクト
  - ・魚を呼び戻す河川再生プロジェクト
  - ・環境負荷の大幅低減を実現する超臨界染色加工技術の開発
  - ・振動に強いリアルタイム三次元計測装置の開発
  - ・「ディッシュクック」による新たな食事提供システム
  - ・スタックなどの車両滞留危険度予測システムの提供
  - ・衛星データ利活用ビジネスの創出

- ・自動運転化された小型生コンプラントを開発
- ・未利用バイオマスをIoT技術によって利活用
- ・ものづくり・介護・農業現場にロボットを導入
- ・北陸地域の工作機械産業のデジタル化を支援
- ・焼却炉で生み出されるエネルギーを利活用
- ・農村水資源の管理・活用システムを開発

- ・AI画像解析技術による交通量、人流モニタリング
- ・極低電圧駆動有機ELの開発
- ・「ロボットの群れの協調」を活用した建設現場での省人化、省力化の実現

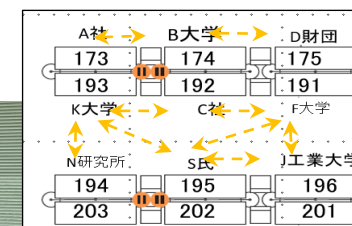
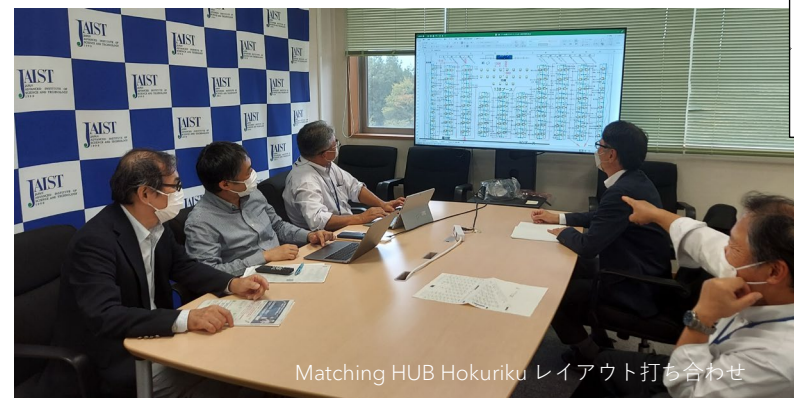


# Matching HUBとURA

主任URAの下、専任URA6名と併任URA3名、非常勤コーディネーター5名(URA含む)を配置し、研究の活性化から社会との連携までをシームレスにサポート

## ■ Matching HUBにおけるURAの役割

- ニーズ・シーズの収集から出展への働きかけ
- ブースレイアウト
- 当日のマッチング支援  
本学以外の大学や企業とのマッチングにも積極的に取り組む
- 出展後のフォローアップ



ブースレイアウト



Matching HUB

「Matching HUB」では、URAがセクターを超えた総合的なマッチング支援を行う。



# Matching HUBの全国展開

## ■ 北陸地域以外で3地域、6回開催

Matching HUB Kumamoto

(2017.2.28 , 2018.3.2 , 2019 2.27)

Matching HUB Otaru (2017.9.5)

Matching HUB Sapporo (2018.9.20)

Matching HUB Tokushima

(2019.10.10-12)

Matching HUB Kirishima ※コロナ禍のため延期

## ■ 開催各地域のネットワーク化

## ■ 開催地域の拡大（今年度は長岡開催）

2022 10/23(日)-24(月)

Matching **HUB**  
Nagaoka 2022



Matching **HUB**  
Hokuriku 2022

2022 11/17(木)-18(金)

# Matching HUBの拡がり



Matching HUB開催地域の拡大とネットワーク化  
(北海道、北陸、四国、九州)



Matching HUBをきっかけとした北陸地域の連携

■ 北陸RDX(2021年～)

全国で3番目の拠点。令和3年4月より5年間。それ以降の自立化を目指す。  
北陸地域を中心とした産学官金の18参画機関と8協力機関が連携。



■ 北陸未来共創フォーラム(2021年～)

北陸国立4大学(富山大学、金沢大学、福井大学、北陸先端大)が中心となり、  
各大学シーズの分科会を設置し、産学官金連携の共創の場を形成。



新しい発見、新しい結合、新しい価値。

北陸未来共創フォーラム

産学官金プラットフォーム for Innovation challenge

■ J-Innovation HUB(地域貢献型)認定(2021年～)

Matching HUBを含む地域の企業との産学連携活動を積極的に行っている拠点として認定。

■ J-イノベ「プラットフォーム型」採択(2022年)

「超越バイオメディカルDX研究拠点」

既存の技術を遥かに凌駕する機能性バイオマテリアルDX研究により、Well-beingを実現し、  
社会にインパクトを与える超越的医療産業イノベーションを創出する拠点を整備。

Matching HUBは「セクターを超えた協働」による  
大学と産業界の「研究」の飛躍を目指すプラットフォーム

新潟の活性化を目指した新産業創出と人材育成

長岡発“産学官金”連携マッチングイベント

NaDeC Presents

Matching **HUB**<sup>®</sup>

Nagaoka 2022

2022 10/23(日)-24(月)  
(23日13:00~17:00、24日9:00~17:00)

アオーレ長岡 JR長岡駅前  
(23日:市民交流ホールB・C / 24日:アリーナ)

“Matching HUB Nagaoka”とは…

企業や大学の技術シーズなどを紹介し、興味のある分野の方々をつなぐ、長岡で初めて開催する展示会です。  
新しい技術や次の展開につながる人との交流の機会を提供します。  
長岡市内の大学・高専生を対象としたビジネスコンテストも併催し、新製品や新事業の創出と人材育成の試みから地域の活性化を目指します。



**主催** Matching HUB Nagaoka実行委員会  
長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡大学、長岡崇徳大学、  
長岡工業高等専門学校、  
長岡商工会議所、長岡市、株式会社NST新潟総合テレビ

**共催** 北陸先端科学技術大学院大学、楽天グループ株式会社

**後援** 公益財団法人にいがた産業創造機構NICO  
NPO法人長岡産業活性化協会NAZE  
株式会社第四北越銀行、株式会社大光銀行

コンテンツ

【1日目】

M-BIP Nagaoka2022(ビジネスアイデア発表会)  
楽天プレゼンツ長岡未来デザインコンテスト

【2日目】展示会、パネルディスカッション、特別講演 ほか

出展者や来場者、イベントスタッフなど、すべての皆様に安心、安全に参加していただくために政府や業界のガイドラインに沿って新型コロナウイルス感染症対策を実施します。

来場登録

右記QRコードよりお申し込みください。  
Matching HUB 特設ポータルサイト





出展募集中

9月20日まで

定数(200)に達したため、  
8月24日(水)17:00終了

リアルイベントを中心にオンライン配信とのハイブリッドで開催します！

北陸地域の活性化を目指した新産業創出と人材育成

北陸発の産学官金連携マッチングイベント

第9回

Matching **HUB**<sup>®</sup>

Hokuriku 2022



Matching HUB

主催 北陸先端科学技術大学院大学 未来創造イノベーション推進本部

会期 2022 **11/17** **木** - **18** **金**

会場 ANAクラウンプラザホテル金沢

11/17(木) 13:30～18:00

[1日目] ■特別講演 ■パネルディスカッション ■M-BIP最終審査

特別講演・パネルディスカッション共通テーマ

『デジタル化と地方創生～北陸地域を活性化するDXとは～』

11/18(金) 10:00～17:00

[2日目] ■ブース展示 ■関係機関セミナー

■M-BIPポスターセッション